

# 玉川・森の里戸陵会だより

## 第6号

### 定期総会開催される

玉川森の里戸陵会総会が、去る五月十六日(土)に七沢温泉元湯玉川館に於いて十七名の参加を得て盛大に開催されました。

ご来賓として、曾根厚高同窓会会長、杉田厚木連合戸陵会会長として、お隣の伊藤小帖戸陵会会長の「ご参加をいただきました。会長あいさし」



が開催出来ることたいへん嬉しく思います。

本日は、お忙しい中、お三方のご来賓にご参加をいただきました。有難うございます。

後ほど、議案の中でも「審議いただきますが、今年度の活動の「酒蔵見学と懇親会の開催」に、支部長会議で検討事項などが示されましたので「検討いただきました」といいます。

### 議案審議

一平成二十六年事業報告

提案通り可決された

二平成二十八年会計報告、並びに会計監査報告

提案通り可決された

三平成二十七年事業計画

1 学校及び同窓会本部行事

への積極的参加

①同窓会総会へ参加

②同窓会各種行事への参加

2 厚木連合戸陵会との連携

強化

発行日 平成27年9月1日  
発行者 会長 高橋 増次  
発行所 玉川・森の里戸陵会

①連合戸陵会総会への参加

②連合ゴルフ大会への参加

3 研修会・講演会への参加

4 支部活動

①総会懇親会等の開催

②酒蔵見学と懇親会の開催

③その他

同窓会の支部長会議で提案された件につき、高橋会長から説明があった

○新たな事業として「どんなことが考えられるか。」

○広報活動のあり方

○OBが講師となって開催する文化講演会

等が審議され、提案通り可決された。特に、その他で提案された件については、今後、課題意識をもって活動し、改善点を探っていくことになりました。

### 楽しい懇親会

総会終了後、懇親会が開催されました。旨い酒に美味しい料理に話しながら楽しい一時を過ご

「お事が出来ました。」

曾根厚高同窓会長さんからは、

①支部長会を創設し、支部活動の活性化、

②同窓会は母校発展に寄与する、

③同窓会として社会貢献を、

④厚高同窓生としての誇りをもち、

といったお話しがありました。

杉田厚木連合戸陵会長からは、

①多くの仲間にかかけをして戸陵会の活性化を、

②同窓生の絆を深めていく、

といったお話しがありました。

懇親会では、毎回、本回数垣根を越えて、厚高同窓生として情報交換をしたり懇親を深めたりしています。

この懇親会では、多くの方々から、多彩な経験に裏打ちされたお話しがたくさん聞けることができ、充実した一時となりました。

また、いつものように、玉川・森の里戸陵会顧問の黄金井一太氏からたくさんの純米生酒をいただきました。有難うございました。

### 今年度の行事計画

#### ○厚高同窓会本部行事

- ・10月17日(土)青春かながわ校歌祭(秦野市文化会館)
- ・11月21日(土)憶いでのに親しむ会(愛川戸陵会主催)
- ・12月12日(土)名取裕子出演イベント(さくら戸陵会主催)

#### ○厚木連合戸陵会行事

- ・11月24日(火)連合ゴルフ大会(本厚木CCにて開催予定)

参加希望の会員は、黄金井哲也氏(高18)までご連絡を

#### ○玉川・森の里戸陵会行事

- ・平成28年2月頃 黄金井酒造(株)見学と試飲会・懇親会



### 地域で活躍する同窓生

今号で、「厚高同窓会会報」や厚木連合戸陵会だよりの紙面に掲載されてきた玉川・森の里地区の同窓生の活躍ぶりをダイジェスト版で、再びお伝えいたします。(文責：三橋)

連合戸陵会だより第3号、4号  
厚木連合戸陵会だより第7号  
**中村 昭 氏(中40回)**

万葉集の研究者。九州東海大学教授を退官された後も万葉集の研究一筋の生活を送っていられる。先生は、万葉集二十巻、約四五一六首の総字数約十二万六千字、と初めて数えられました。人麻呂から家持までは、百年の歳月が流れ、万葉集はいつ書き始められ、いつ書き終わったのか。つまり、成立と編纂はいつなのかは、いろいろな説があつてよくわかりませんでした。そこで、音仮名率という概念に気がかれ、「の率が時代によつて違つた」に着目しての研究をされていらっしゃいました。

書かれています。その中で、「聴く」ということは、『十四の心で耳をたたく』と書きまますし、意味がとれます。お口々に「聴く」といふ心をもつたおつきあひの大切さを世代を超えて語り継ぎたいとあつしゃつていられます。

「聴く」といふ言葉、なんと意味深い言葉なのでしょうが。

厚高同窓会会報 第45号  
**三橋 修 氏(中40回)**

「父子二代のブドウ栽培」  
「第二の人生は、父と同様大地の温もりを観するブドウ栽培と決めていました」で書き始められ、巨峰栽培の歴史が簡潔に紹介されています。

巨峰は、果実が大きく糖分も高いなど高級ブドウの条件を備えているが、それだけに巨峰ブドウ栽培の難しさがある、という。

現状は、栽培農家の高齢化や栽培技術の進化、ホルモン剤の開発、消費者の好みにより、種なし

ブドウが大勢を占めているが私には関与しない、とおっしゃっている。  
厚木連合戸陵会だより 第6号  
**高橋 増次 氏(高11回)**

「玉川・森の里戸陵会会長」  
横浜市消防局を定年退職後、先祖伝来の畑を守るため帰農し、七沢ふれあいセンター入口で野菜の直売場を経営されている。会長として、会設立目的を達成するため、敷居を低くして若者男女誰でもが参加できる会にした

つと思つています、とのこと。  
厚木連合戸陵会だより 第8号  
**市川 英美 氏(高14回)**

「プレカット導入の物市川屋」  
市川屋は明治、大正、昭和、平成と長い間七沢の地で木材に関わる地元企業として信頼にこたえてきた。平成二年に「プレカット」方式の機械をいち早く導入した。プレカット方式というのは、建築の設計図をCADといつてパソコンを使って加工図に書き換え、そのデータを機械が読み取り、全自動で木材を切ったり、削ったり、穴を開けたりの一連の工程を行う方式のことです。一日で約三十坪の家の軒分ができる、という。

厚高同窓会会報 第48号  
**山口 義章 氏(高15回)**

「小野小町ゆかりの地、小野」  
小野小町伝説の保存を目的に活動している小野小町研究会の事務局を務めていられる。

小野小町と言へば平安時代初期に活躍した有名な六歌仙の一人で、絶世の美女だったと言われています。その小町の出生地との伝説が当地の小野に昔から語り継がれている。小町神社があり、小町七不思議が伝承されてきている、とのこと。です。

厚木連合戸陵会だより 第9号  
**佐藤 忠男 氏(高10回)**

「地元小学校の農業先生」  
会社を定年退職後、農業経営にあたりこられた。平成十五年からは玉川小学校の「農業の先生」として子どもたちに慕われている。子ども達は体験を通して教科の学習だけでは得られない様々なことを学んでいる。

農業の大切さ、農業を行うことは環境を守ること、さらに、「次の作業のことを考えて、今の作業をする」ことの大切さに気がさせた、とおっしゃつていられる。

厚高同窓会会報 第49号  
**本山 勝男 氏(高14回)**

「昆虫に魅せられて」  
本山氏は、「ご存知のように玉翠楼」という温泉旅館を経営していられる。その玉翠楼の応接室には蝶や甲虫類の標本がいっぱい展示してある。保存状況も良く、玉虫の色といい蝶の形や色といひすはらしい標本ばかりである。

「甲虫類は種類も多く、色が美しく変色している、蝶などは形、色が美しく観察してついで飽きない」とおっしゃつていられる。

厚木連合戸陵会だより 第10号  
**後藤 功 氏(高14回)**

「趣味の盆栽に向き合つて」  
後藤氏は、社団法人日本盆栽協会厚木支部長として、約三十名の盆栽好きな仲間を率いて様々な活動をしていられる。

盆栽には、自然のものを手本として、自然に植わっているような情景を小さな鉢の中に表現するといった面白さ、楽しさがある。同じ材料を使つても、どの枝を残すか、切るか、どう鉢に植え込むかなど一人によつて違つてくる、醍醐味がある、とのこと。です。

厚木連合戸陵会だより 第5号  
**朝生 旭 氏(高9回)**

教育者で、厚木市立森の里小学校校長を最後に退職。保護司。

「戸陵会だより」は、「語」の継ぎたい、聴くべきの大切なことについて